

井笠おかやま

官民組織 順次実現へ

星の郷づくり 井原で着々

星を生かしたまちづくりに取り組んでいる井原市の官民連携組織「星の郷まちづくりコンソーシアム」が、2022年度の事業案の仕上げ段階に入った。星空を満喫できるキャンプや高校天文部の誘致などのアイデアを温めており、今後、順次実現させる運びだ。

(西均)



高校天文部合宿やキャンプ...

笠岡支局 ☎0866(63)2847 FAX(69)2032
 井原支局 ☎0866(62)1066 FAX(65)0032
 岡山支局 ☎086(22)1133 FAX(22)1135
 ニュースや話題など身近な情報をお寄せください

(1日)
 <満位>分
 11時16分 344
 23時57分 368
 <千位>分
 5時29分 83
 17時39分 32

笠岡港の潮

笠岡放送

8・30	あっちこち岡山
10・30	とんと音があつた
12・30	神山と学ぶ日本神
18・00	ニュース
18・00	井原放送
14・00	宣伝倶楽部
18・15	ニュース
18・20	高梁川流域百選
18・55	アニメおじゃる丸
19・43	いきいき百歳体操

美星支所で3月下旬にあったワークショップ形式の会議に、大舌敷市長たち約30人が参加。体験プログラムの開発グループは、美星町地区に2カ所あるキャンプ場で、四季を通じて楽しめるイベントを計画。野菜の収穫体験や星空ウォッチングを組み入れた2泊3日のプランを練っている。

また、誘客グループは全国に約4千ある高校天文部による合宿の誘致を提案。4月1日から、横浜市の高校生10人を試験的に受け入れた。レンタカーやタクシーを使った周遊促進や、ブドウ苗木オーナー制度なども候補に挙げている。

コンソーシアムは、美星町が「星空保護区」に認定される1年前の2020年10月に発足した。市や観光協会のほか、岡山大、事業者、まちづくり関係者たち約30の団体・個人で構成した。

笠岡湾干拓地バイオガス発電所

建設工事の安全祈願

コロナ禍 操業1年延期

笠岡湾干拓地(笠岡市)で牛ふんから出るメタンガスを生かしてバイオガス発電所の建設を計画している事業費も膨らむ見通し。

ルス禍による手続きの遅れで1年延期し、2024年4月に変更。資材高騰で総事業費も膨らむ見通し。

同干拓地で畜産農家が肉牛や乳牛計約9千頭を育てており、堆肥製造時に発生する牛ふんの臭いが課題になっている。牛ふんから出るメタンガスを使うため、

発電所建設が課題解決につながるかと期待されている。森社長は「事業で臭い問題も解消されると思う。工事も安全に進めたい」と話していた。(谷本和久)

女性視点の防災手引き

りしている。避難時は両手が自由に使えるリュックが更迭で、子

奥田小由女さん 文化勲章受章記念シンポ

新緑映る神龍湖 鮮やか湖水開き

高

国定公園帝釈開き」が20日、町と神石高原町